

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073500243		
法人名	社会福祉法人 千草会		
事業所名	グループホーム マイネスハウス ひなた庵		
所在地	福岡県糸島市高上171番地 (電話) 092-329-1500		
自己評価作成日	平成 23 年 8 月 28 日	評価結果確定日	平成 23 年 11 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

雷山・可也山を一望する風光明媚な高台に位置しており、特別養護老人ホーム等の母体施設に隣接した、日本家屋風の平屋一戸建ての施設。事業所内に中庭があり、薔薇館・百合館が建っている。自然豊かな地で、緑の木々は、心を癒し、ゆったりとした時間の中で生活をして頂いている。身体拘束廃止で、鍵を掛けないケアを実践し、利用者の人格及び尊厳を守っている。また、法人での夏祭りの開催や地域の祭りへの参加、コスモス畑作り、ボランティアの訪問等「地域との交流」を事業所内外で図っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 23 年 9 月 27 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

山を一望する高台に位置し、特別養護老人ホームに隣接された平屋建ての事業所である。敷地内には池や菜園が設けられている。居住空間は広々とした木の温もりを生かした暖かみのある和やかな雰囲気である。利用者主体のサービス提供や地域交流を心がけて実践している。地域との交流も自然体で活発に行われており、近隣の住民と顔なじみで親密な関係が構築されている。医療機関とも密な連携を取り、重度化が進む中でも安心して過ごせる体制を構築している。毎日の生活を楽しむことができるようボランティアによる催しも充実している。介護計画や記録も適切になされている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づく運営方針で、「利用者が家庭的な環境の中で、地域住民との交流のもと生き生きとした日常生活を送る」を掲げて実践している。	事業所独自の理念に「地域住民との交流のもと」という地域密着型の視点がある。理念をミーティング時や朝礼時に確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや地域の文化祭、行事等に参加し、地域との交流を図っている。	町内会・自治会に加入し、近隣の保育園・小学校・中学校等との交流がある。定期的に茶道・メイク・マッサージなどのボランティアが訪問している。地域のコスモス祭りや敬老会へ参加し、また、事業所が催す夏祭りや文化祭への地域住民の参加があるなど、地域交流に積極的に取り組んでいる。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設施設で、地域住民や家族に対して介護教室等を行っている。事業所への見学や実習生の受け入れも行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に自治会長・地域包括支援センター・家族代表の参加により事業所の運営・利用者のケアや取り組み等報告し、質問、意見、要望等を聞いて検討し、サービス向上に取り組んでいる。	運営推進会議は定期的に開催している。メンバーには区長・地域包括支援センター職員・家族代表も参加している。食事のメニューや行事などについて意見や要望があり、日頃のケアに結びつける取り組みを行っている。会議録も作成している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長は全国老社協議員、地域密着型サービス部会長・運営協議会委員等を務め、福祉サービスに関する会議を重ねている。糸島地区介護保険事業連絡会議において市職員との意見交換や研修を行っている。	行政との連携を密に取り、サービスに関する課題等について話し合い、課題解決に向けて取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設以来、施設長の理念と方針にて拘束は、一切行っていない。身体拘束廃止マニュアル、委員会を設置、全体会議にて職員の周知徹底を行っている。	居室・玄関は施錠していない。職員は利用者の外出傾向を把握していて、近所の人には声かけや見守りを依頼している。マニュアルを整備し、職員は身体拘束に関する内部研修に参加している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止マニュアル、委員会で虐待について取り上げ、全職員に周知徹底を図り、年2回身体拘束ゼロチェックリストにて評価を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業、成年後見制度については、全体会議で内部研修を実施している。契約時には、利用者や家族に権利擁護についての説明を行い、必要時には相談を受け、利用に繋げている。	制度について内部研修で学ぶ機会を設けている。家族には入居時や必要時に説明している。パンフレット・研修記録・報告書がある。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき、説明を行い、理解・納得された上で契約・同意書を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、利用者・家族に説明を行い、苦情受付箱の設置、アンケート調査の実施、運営推進会議等への家族の参加により、その都度意見等を尋ねている。また、第三者委員会の設置、連絡先を明示し、公的相談窓口の紹介もしている。	毎日の関わりの中で利用者の意見や要望の把握に努めている。家族から意見や要望を出しやすいように声かけに努め、出された要望は具体的にケアに活かす取り組みを行っている。第三者相談窓口については契約時に説明している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議・全体会議・部署会議等で、職員の意見・提案を聞き、運営に反映させている。	自己評価は全職員の意見を聴取して取り組んでいる。代表者や管理者は個別面談を行ったり、声かけをして職員が意見を言い易いようにしている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員常勤で、施設長は、職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように給与面、職場環境条件等を考慮している。今年度より新たに、リフレッシュ休暇（5連休）を設けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、適性を考慮し、性別や年齢等の理由で排除しないようにしている。本人の能力が発揮できる職場環境を目指し、職員がスキルアップできるように各資格取得にも配慮している。</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては、性別・年齢等に関係なく適性を重視している。リフレッシュ休暇を設けるなど職員が働きやすい環境整備にも努めている。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権教育・啓発のため、全体会議・部署会議等において研修の機会を設け、職員の周知徹底を行っている。</p>	<p>利用者の人権を尊重するための内部研修を行っている。パンフレット・研修記録・報告書がある。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設外部研修へ参加し、全体会議にて研修報告を行っている。また、併設事業所の合同の、各委員会に参加し感染症・褥瘡・安全対策等を学び、部署会議にて報告・勉強会を行っている。毎朝合同の申し送りにも参加し、施設長よりの助言や指導を受け、自己のスキルアップ向上につなげている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加入し、定期的に研修や親睦会、施設見学などに参加して交流に努めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用者・家族より聞き取りを行い、入居に至る経過、今までの生活環境や趣味・対人関係などバックグラウンドを把握するようにし、初期段階のケアに活かし本人との信頼関係の構築に努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居契約時に家族の不安に思っていることや悩み・要望等を聞いている。出来る限り家族の不安や悩みを解消できるように個別に合わせたケアの実践を心がけている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族より相談を受け相談内容から何を必要とされているかを見極めて対応、支援を行っている。また、他の事業所や居宅介護支援センター等との連携を図り対応している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が、介護をする・されるの関係だけでなく、生活していく中で、喜怒哀楽を共にして、より良い関係を築いていっている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常生活の様子・変化等を面会時や電話にて伝えている。家族が宿泊できる体制も整えている。時には自宅に帰宅して家族との絆を深める事が出来るように支援している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、友達の方が、気軽に面会に来られたり、いつでも電話で家族や兄弟と話ができるように支援している。また、外出で自宅や本人が行きたい場所へ行けるようにも支援している。	利用者の馴染みの人や場所について、独自の調査票を使用し、本人・家族から聴取して把握している。友人や知人の訪問は自由であり、つながりを継続できるように努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の自然な関わりを大切に、お互いに支え合い、協力し合って日々の生活を送られるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により契約を解約した利用者も入院先へお見舞いに行ったり、経過を見て相談や支援体制を整えている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は、日々の関わりの中で、利用者に声をかけ、一人ひとりの思いや希望を把握・支援している。意思疎通が難しい利用者は、表情や仕草等を察すると共に家族等から情報を得て、本人の思いに添うように支援を行っている。	職員は、日々の関わりの中で一人ひとりの利用者に声かけしながら希望や思いを汲み取るようにしている。意思疎通が困難な利用者には行動や表情から推し測ったり、家族や他の職員から聴くなど、あらゆる角度から判断して支援している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居契約の段階で、利用者の生活歴や生活環境等の情報をもとにバックグラウンドを把握し、利用者のケアに繋げている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、利用者一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態を把握し、本人の出来る事と出来ないことを見極め、役割を持ちそれぞれの自立支援に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6カ月に1回、また、利用者の状態変化や状況に応じて、利用者・家族・施設長・職員と共にケアカンファレンスを開催し、介護計画の見直しを行っている。	担当者とケアマネージャー、看護師は利用者・家族、医師の要望や他の職員の意見、日頃の状態など勘案し作成している。ミーティングにて全員に諮り、ケアマネージャーが個別・具体的に介護計画を作成している。6カ月毎、または、状態に変化があれば、随時介護計画を見直し、家族に説明して署名及び同意の押印を受けている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の毎日の介護記録、モニタリングシートを介護計画の見直しに活用している。また、職員間でケアの情報を共有し、実践に繋げている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望により併設のデイサービスでリハビリを行ったり、他の利用者との交流を行っている。また、利用者の心身状況、家族の希望により、特別養護老人ホームの入居への対応も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方によるお茶会、セラピューティックケア（マッサージ）・化粧等のボランティア活動に定期的に来て頂き、利用者の楽しみと交流支援を頂いている。地域の行事にも招待して頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が希望する医療機関・事業所の協力病院（24時間対応）・歯科医師による適切な医療を受けられるよう支援している。家族の希望により受診時の送迎・付き添いを行っている。	利用者や家族が希望するかかりつけ医を優先している。利用者の殆どは、24時間体制の協力医院で、週1回往診される医師に受診しており、利用者・家族も了解している。外部での専門医療機関での受診は家族が同行しており、必要に応じて職員も同行している。利用者の受診時の通院介助、情報の伝達方法について家族と話し合っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの職員として看護師が常勤しており、日常の健康状態のチェックを行っている。併設施設の看護師とも連携体制を取り、日常的に連絡相談を行い、利用者の健康管理を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、情報提供やケア協力を行っている。入院中、お見舞いに行ったり、家族と連絡を取り、状況把握に努めている。また、医療機関と連携しながら退院に向けた体制を整えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護に関する指針、対応について定め方針を共有している。契約時に看取り介護に関する説明を家族に行い、同意を頂いている。重度化した場合どのように対応していくか等について、家族の意向等を確認している。	重度化や終末期のあり方について、事業所の対応方針があり、明文化している。利用申し込み時に、重度化の場合の事業所の方針を説明しており、家族の捺印がある。また、利用者の状態が変化した場合は、その都度本人、家族、主治医等関係者と対応を話し合い、合意のもと全員で方針を共有して支援を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、緊急時の対応方法・事故発生時の対応方法を含め、初期対応・連絡方法を職員に周知徹底している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、母体施設とともに、年2回の消防避難訓練を実施している。また、地域の消防団への連絡体制も取っている。非常用食品・飲料水・備品等を準備し、災害時に対応できるように対策を取っている。	マニュアルを作成し、母体施設と共に、夜間・昼間を想定し、消防署の指導のもと年2回、避難訓練を実施している。避難訓練には地域住民の参加の呼びかけを行い、消防団員は消火器持参して参加している。非常用食料・飲料水・備品は隣接の母体施設に準備されている。	現状でも災害対策は十分であるが、安全管理をより確実に行うために、災害対策用の備品等については、事業所毎に準備をお願いしたい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格や性格など把握し、尊重しながら利用者自身のその人らしさを損ねないようにプライバシーの確保に努めている。	施設長は、利用者の尊厳を保つことを重視し、利用者一人ひとりの人格や性格など把握し、誇りやプライバシーを損ねない対応について特に注意を払うように職員を指導している。個人情報保護に関する内部研修を行い、職員の意識向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者の思い、好み、希望を聞いて、それぞれが選択できるように支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは一応決まっているが、利用者一人ひとりのペースに添ったケアを行うようにしている。起床時間や食事時間や場所等も本人の希望に応じて変更している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みで、日々の衣服を選び、月に1回お化粧ボランティアに来て頂き、メイクやマニキュア等おしゃれを楽しんでいる。また、2ヶ月に1回訪問理美容で、希望により散髪を行ってもらっている。男性利用者は、入浴時や毎朝髭剃りを行い、身だしなみやおしゃれに気を配っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士が作成した献立表をもとに、利用者と一緒に準備から後片付けまでを行っている。座席にも考慮し、食事中は、音楽を流し楽しんで食事が出来るように配慮している。	献立は管理栄養士が作成し、利用者の体調に合わせた調理方法を行っている。食事介助者が介助と見守りをしながら支援している。その他の職員は休憩をとっており、利用者とは食事を一緒には行っていない。おやつは職員が利用者と一緒に食べている。栄養士は6カ月毎に嗜好調査を行っており、菜園で育てた野菜を調理するなど食事が楽しみになるように工夫をしている。	介助する一方にならず、職員が同じ食事を味わいながら利用者が食事を楽めるように工夫してほしい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が、栄養面に考慮して献立を作成している。食事・水分摂取量チェックを行い、一日を通しての摂取量が把握できる。また、利用者の嗜好調査を行い、利用者に合わせた食事形態で提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者一人ひとりに応じた、口腔ケアを行い、口臭予防や清潔保持に努めている。協力歯科医師の往診を定期的に受け、口腔内のケアについて相談や適切な指導を受ける環境を整えている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記入により、間隔や量を把握して、失敗を防ぐために事前のトイレ誘導を心がけ、トイレでの排泄支援を行っている。使用オムツやパットは、利用者の状態や昼夜の時間を考慮し、家族とも検討して適切なものを選択している。	職員は排泄チェック表にて利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄する取り組みを積極的に行っている。利用者が失禁した際、周囲に気づかれないように声かけし、トイレや利用者の居室でさりげない対応をしている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、便秘予防の為に、毎日ラジオ体操やストレッチ体操等で適度な運動を行い、牛乳や繊維の多い野菜、ヨーグルトなど便通を良くする飲食物を献立に取り入れている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日は、月～土曜日まで行っている。入浴前に本人の希望を聞き、入浴して頂いている。また、バイタルチェックを行い身体状態を把握し、個別に合わせて対応している。入浴拒否がある利用者には、声かけやタイミングを図る等、強制的にならないように考慮している。	入浴は、利用者の希望に応じて毎日いずれの時間帯でも可能である。基本的に午後の時間帯に一人ひとり、ゆったりとした気分での入浴の支援している。入浴を拒否される利用者には好きな利用者との入浴やタイミングを図っての呼びかけなど誘導にも工夫している。季節に応じ、柚子湯など行い、入浴を楽しめるように配慮している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣や睡眠パターンを把握している。朝食後の休息、昼寝をしたり、ベッドで横になって身体を伸ばしたい等、利用者の希望に沿った対応している。また、ホールソファでも休息や仮眠が出来るようにクッションや毛布など準備している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が把握できるように、利用者一人ひとりの処方箋をファイリングして、所定の場所に置いている。処方箋に変更があった場合は、各職員に申し送りを行っている。毎服薬チェック表に記入し、服薬の間違いないように十分注意している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に食器洗いや洗濯物たたみ等の日常生活における仕事の役割を持って頂いている。その他、畑にて野菜作り、草取りなど、興味ある事や好きな事をして頂いて、楽しみが出来るように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて、園庭や近所に散歩に行ったり、桜見、コスモス見学、ドライブなど外出する機会を作り、気分転換が出来るように支援している。家族が面会に来られた際、買い物や散歩に連れて行って頂くなど、家族の協力体制も出来ている。	天候や利用者の状態によるが、事業所内の庭の散歩は、ほぼ毎日支援している。外出する行事を年間を通して企画しており、利用者の希望を把握しながら出来るだけ外出の機会を多く持つように工夫している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人の希望（管理できる人）によりお金を自分で、管理して頂いている。電話代を自分で管理し、好きな時に公衆電話で電話できるようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に公衆電話あり、自由に電話できるようにしている。家族からの電話も取り次いでいる。手紙やはがきも家族や姉妹に返事を書くように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は、全てバリアフリーになっていて車椅子・歩行器でも自由に動けるようになっていて。利用者が、日中一緒に過ごされるホールは、台所が、対面式。食堂テーブル・椅子やテレビ、ソファ等配置し、中庭には池があり、緑の木々が植えられ、居心地よく過ごせるように工夫している。	共有空間は広く、諸々に椅子が設置され、一人で過ごせるように工夫している。共有空間に続く中庭には、花や野菜がプランター栽培され、収穫もされ食している。全体的に気になる臭いや音もなく、整然とし落ち着いた雰囲気を作っている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのホールにソファ、座卓、廊下には、イスを配置し、ベランダにもテーブル椅子を配置し、利用者一人ひとりが思い、思いに好きな場所で過ごせるように配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に、今まで使い慣れた物や馴染みのある物など持ち込んで頂き、家族との写真などを置いて、居心地よく過ごせるように家族と共に部屋作りを行っている。	居室は本人の使い慣れた家具やテレビ、ラジオなどが持ち込まれており、家族の写真や手紙、仏壇などが飾られている。使い慣れた物等を活かして利用者が穏やかに過ごせるように工夫している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体が、バリアフリーとなっていて、車椅子でもゆっくり移動できるように十分な広さと段差のない作りになっている。一人ひとりの身体機能に合わせたベッドや家具の配置を考慮し、安全で自立した生活ができるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	-	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	-	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	-	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	-	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	-	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	-	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づく運営方針で、「利用者が家庭的な環境の中で、地域住民との交流のもと生き生きとした日常生活を送る」を掲げ実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや地域の文化祭、行事等に参加し地域との交流を図っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設施設で、地域住民や家族に対して介護教室等を行っている。事業所への見学や実習生の受け入れもやっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に自治会長・地域包括支援センター・家族代表の参加により事業所の運営・利用者のケアや取り組み等報告し、質問、意見、要望等を聞き検討しサービス向上に取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長は全国老社協代議員、地域密着型サービス部会長・運営協議会委員等を務め、福祉サービスに関する会議を重ねている。糸島地区介護保険事業連絡会議において市職員との意見交換や研修を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設以来、施設長の理念と方針にて拘束は、一切行っていない。身体拘束廃止マニュアル、委員会を設置、全体会議にて職員の周知徹底を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止マニュアル、委員会で虐待について取り上げ、全職員に周知徹底を図り、年2回身体拘束ゼロチェックリストにて評価を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業、成年後見制度については、全体会議で内部研修を実施している。契約時には、利用者や家族に権利擁護についての説明を行い、必要時には相談を受け、利用につなげている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき、説明を行い、理解・納得された上で契約・同意書を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、利用者・家族に説明を行い、苦情受付箱の設置、アンケート調査の実施、運営推進会議等への家族の参加により、その都度意見等を尋ねている。また、第三者委員会の設置、連絡先を明示し、公的相談窓口の紹介もしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議・全体会議・部署会議等で、職員の意見・提案を聞き運営に反映させている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員常勤で、施設長は、職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように給与面、職場環境条件等を考慮している。今年度より新たに、リフレッシュ休暇（5連休）を設けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、適性を考慮し、性別や年齢等の理由で排除しないようにしている。本人の能力が発揮できる職場環境を目指し、職員がスキルアップできるように各資格取得にも配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育・啓発のため、全体会議・部署会議等において研修の機会を設け、職員の周知徹底を行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外部研修へ参加し、全体会議にて研修報告を行っている。また、併設事業所の合同の、各委員会に参加し感染症・褥瘡・安全対策等を学び、部署会議にて報告・勉強会を行っている。毎朝合同の申し送りにも参加し、施設長よりの助言や指導を受け、自己のスキルアップ向上につなげている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、定期的に研修や親睦会、施設見学などに参加して交流に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者・家族より聞き取りを行い、入居に至る経過、今までの生活環境や趣味・対人関係などバックグラウンドを把握するようにし、初期段階のケアに活かし本人との信頼関係の構築に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時に家族の不安に思っていることや悩み・要望等を聞いている。出来る限り家族の不安や悩みを解消できるように個別に合わせたケアの実践を心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族より相談を受け相談内容から何を必要とされているかを見極めて対応、支援を行っている。また他の事業所や居宅介護支援センター等との連携を図り対応している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が、介護をする・されるの関係だけではなく、生活していく中で、喜怒哀楽を共にして、より良い関係を築いていっている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常生活の様子・変化等を面会時や電話にて伝えている。家族が、宿泊できる体制も整えている。時には自宅に帰宅して家族との絆を深める事が出来るように支援している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、友達の方が、気軽に面会に来られたり、いつでも電話で家族や兄弟と話ができるように支援している。また外出で自宅や本人が行きたい場所へ行けるようにも支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の自然な関わりを大切に、お互いに支え合い、協力し合って日々の生活を送られるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により契約を解約した利用者も入院先へお見舞いに行ったり、経過を見て相談や支援体制を整えている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は、日々の関わりの中で、利用者に声をかけ、一人ひとりの思いや希望を把握・支援している。意思疎通が、難しい利用者は、表情や仕草等を察すると共に家族等から情報を得て、本人の思いに添うように支援を行っている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居契約の段階で、利用者の生活歴や生活環境等の情報をもとにバックグラウンドを把握し、利用者のケアにつなげている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、利用者一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態を把握し、本人の出来る事と出来ないことを見極め、役割を持ちそれぞれの自立支援に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月に1回、また利用者の状態変化、状況に応じて、利用者、家族、施設長、職員と共にケアカンファレンスを開催し、介護計画の見直しを行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の毎日の介護記録、モニタリングシートを介護計画の見直しに活用している。また、職員間でケアの情報を共有し実践につなげている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望により併設のデイサービスでリハビリを行ったり、他の利用者との交流を行っている。また利用者の心身状況、家族の希望により、特別養護老人ホームの入居への対応も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方によるお茶会、セラピューティックケア（マッサージ）・化粧等のボランティア活動に定期的に来て頂き、利用者の楽しみと交流支援を頂いている。地域の行事にも招待して頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が、希望する医療機関・事業所の協力病院（24時間対応）・歯科医師による適切な医療を受けられるよう支援している。家族の希望により受診時の送迎・付き添いを行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの職員として看護師が、常勤しており、日常の健康状態のチェックを行っている。併設施設の看護師とも連携体制を取り、日常的に連絡相談を行い、利用者の健康管理を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、情報提供やケア協力を行っている。入院中、お見舞いに行ったり、家族と連絡を取り、状況把握に努めている。また、医療機関と連携しながら退院に向けた体制を整えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護に関する指針、対応について定め方針を共有している。契約時に看取り介護に関する説明を家族に行い、同意を頂いている。重度化した場合どのように対応していくか等について、家族の意向等を確認している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、緊急時の対応方法・事故発生時の対応方法を含め、初期対応・連絡方法を職員に周知徹底している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、母体施設とともに、年2回の消防避難訓練を実施している。また地域の消防団への連絡体制も取っている。非常用食品・飲料水・備品等を準備し、災害時に対応できるように対策を取っている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格や性格など把握し、尊重しながら、利用者自身のその人らしさを損ねないようにプライバシーの確保に努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者の思い、好み、希望を聞いて、それぞれが、選択できるように支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは、一応決まっているが、利用者一人ひとりのペースに添ったケアを行うようにしている。起床時間や食事時間や場所等も本人の希望に応じ変更している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みで、日々の衣服を選び、月に1回お化粧ボランティアに来て頂き、メイクやマニキュア等おしゃれを楽しんでいる。また2ヶ月に1回訪問理美容で、希望により散髪を行ってもらっている。男性利用者は、入浴時や、毎朝髭剃りを行い、身だしなみやおしゃれに気を配っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士が作成した献立表をもとに、利用者と一緒に準備～後片付けを行っている。座席にも考慮し、食事中は、音楽を流し楽しんで食事が出来るように配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が、栄養面に考慮し献立を作成している。食事・水分摂取量チェックを行い、一日を通しての摂取量が把握できる。また、利用者の嗜好調査を行い、利用者に合わせて食事形態で提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者一人ひとりに応じた、口腔ケアを行い、口臭予防や清潔保持に努めている。協力歯科医師の往診を定期的に受け、口腔内のケアについて相談や適切な指導を受ける環境を整えている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記入により、間隔や量を把握して、失敗を防ぐために事前のトイレ誘導を心がけ、トイレでの排泄支援を行っている。使用オムツやパットは、利用者の状態や昼夜の時間を考慮し、家族とも検討して適切なものを選択している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、便秘予防の為に、毎日ラジオ体操やストレッチ体操等で、適度な運動を行い、牛乳や繊維の多い野菜、ヨーグルトなど便通を良くする飲食物を献立に取り入れている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日は、月～土曜日まで行っている。入浴前に本人の希望を聞き、入浴して頂いている。またバイタルチェックを行い身体状態を把握し、個別に合わせて対応している。入浴拒否がある利用者には、声かけやタイミングを図る等、強制的にならないように考慮している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣や睡眠パターンを把握している。朝食後の休息、昼寝をしたり、ベッドで横になって身体を伸ばしたい等、利用者の希望に沿った対応している。また、ホールソファでも休息や仮眠が出来るようにクッションや毛布など準備している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が把握できるように、利用者一人ひとりの処方箋をファイリングして、所定の場所に置いている。処方箋に変更があった場合は、各職員に申し送りを行っている。毎回服薬チェック表に記入し、服薬の間違いないように十分注意している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に食器洗いや洗濯物たたみ等の日常生活における仕事の役割を持って頂いている。その他、畑にて野菜作り、草取りなど、興味ある事や好きな事をして頂いて、楽しみが出来るように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて、園庭や近所に散歩に行ったり、桜見、コスモス見学、ドライブなど外出する機会を作り、気分転換が出来るように支援している。家族が面会に来られた際、買い物や散歩に連れて行って頂くなど、家族の協力体制も出来ている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人の希望（管理できる人）によりお金を自分で、管理して頂いている。電話代を自分で管理し、好きな時に公衆電話で電話できるようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に公衆電話あり、自由に電話できるようにしている。家族からの電話も取り次いでいる。手紙やはがきも家族や姉妹に返事を書くように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は、全てバリアフリーになっていて車椅子・歩行器でも自由に動けるようになっていて。利用者が、日中一緒に過ごされるホールは、台所が、対面式。食堂テーブル・椅子やテレビ、ソファ等配置し、中庭には池があり、緑の木々が植えられ、居心地よく過ごせるように工夫している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのホールにソファ、座卓、廊下には、イスを配置し、ベランダにもテーブル椅子を配置し、利用者一人ひとりが思い、思いに好きな場所で過ごせるように配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に、今まで使い慣れた物や、馴染みのある物など持ち込んで頂き、家族との写真などを置いて、居心地よく過ごせるように、家族と共に部屋作りを行っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体が、バリアフリーとなっていて、車椅子でもゆっくり移動できるように、十分な広さと段差のない作りになっている。一人ひとりの身体機能に合わせた、ベッドや家具の配置を考慮し、安全で、自立した生活が出来るようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	-	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	-	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	-	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	-	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	-	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	-	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない